

学校自己評価システム取組状況調査報告書

平成27年度

県立学校評価委員会

学校名	埼玉県立川越高等学校		Aグループ
項目	調査の観点	取組状況に関する所見	
目指す学校像	目指す学校像は、学校の現状、課題等を踏まえて設定されているか。	校風である「自主自立」に加え、今日的な「グローバル化」というフレーズを取り入れ、不易と流行を念頭に置きながら、バランスのとれた学校像を掲げている。学校の歴史や寄せられる期待を踏まえ、伝統校としての良さを生かした適切かつ明瞭な学校像が設定されている。	
重点目標	学校が抱える課題の解決に向け、児童生徒の実態など学校の状況を踏まえて、目標の重点化が図られているか。	学校の取り組むべき方向が三つの柱として設定されている。学校の課題が明確に示されているが、目指す学校像を受け「グローバル社会で活躍する人材の育成」という観点を加え、より良いものにしていただきたい。	
重点目標達成への取組	重点目標の達成に向けた組織体制が整備され、適切に機能しているか。	分掌・学年等が連携しながら、目標達成を目指す体制となっている。学校自己評価システムが組織的かつ適切に運営されており、学校関係者の意見などがうまく活用された取組となっている。	
	方策は適切に策定され、効果的に実施されているか。	現状に基づき、評価項目の達成に向けて、「学校力向上部会」を立ち上げるなどの具体的な方策が策定されている。評価指標が方策の達成状況を評価するものとしては、やや抽象的であるので、何を、いつまでに、どの程度行うのかといった視点から、教職員間で目標の達成イメージが共有できるような分かりやすいものを設定することが望まれる。	
	校長の的確なリーダーシップの下、教職員が共通理解を深めながら組織的に取り組んでいるか。	校長は組織力を高め、学校自己評価システムを生かした学校経営に取り組んでおり、状況に即して的確にリーダーシップを発揮しながら、課題の解決の方向を示している。その達成に向けて更に組織的に取り組むことが期待される。	
	学校関係者評価等を踏まえて、達成状況や課題を検証し、取組の改善・更新が行われているか。	年度評価・学校関係者評価などから課題を次年度の目標・方策に適切に引き継ぎ、解決に向けて組織的に取り組んでいる。取組を検証するためのアンケートを実施し、結果等をよく分析し、そこから新たな課題を洗い出すなどして、次年度のより具体的な取組につなげるようにしていただきたい。	
特記事項			